

2021年 月 日

東京都知事 小池百合子 様
東京都教育委員会教育長 藤田裕司 様

学校が子どもたちを東京オリンピック・パラリンピックの 競技観戦に連れていくのはやめてください

東京都内の公立・私立の幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校の子どもたち全体の8割にあたる約81万人が、学校・園の教職員に引率されて東京オリンピック・パラリンピックの競技を観戦する計画がすすめられています。

この計画は、新型コロナウイルスの感染拡大の前につくられたものですが、3度目の緊急事態宣言が発令され、2度にわたって延長されているにもかかわらず、具体的な感染対策がほとんど示されていません。子どもたちは電車やバスなどの公共の交通機関を使用するとされています。現在、猛威をふるっている変異株は、子どもも感染しやすく、重症化する可能性もこれまでより高いと言われてます。ワクチンを接種していない子どもたちが、密になって移動し、世界各国から大勢の人が集まる競技場で観戦することは、きわめて危険なことです。加えて、真夏に、屋内外を問わずマスクをして観戦することによる熱中症の危険も危惧されるところです。

東京都教育委員会の文書によれば、観戦できなかった場合、「都立学校においては、当日が授業日である場合は、欠席扱い」です。また、「正当な理由なくキャンセルすることは認められません」（2019年5月、観戦チケット最終意向調査における留意事項）とされています。感染症と熱中症という二重の危険にさらすことになるにもかかわらず、子どもたちに強制することがあってはなりません。

そもそも、国内はもちろん、世界的にも感染拡大が収まらない中で、今夏のオリンピック・パラリンピックの開催を強行すべきではありません。その声は、国内外で大きく広がっています。

「運動会はやらないのに、なんで五輪はやるの？」—小学校3年生が、泣きながら父親に訴えたと報道されています。都民のいのちと「安心・安全」を守るために、まず必要なのは、今夏のオリンピック・パラリンピック開催を中止し、そのために計上された予算を感染症対策にまわすことです。そのことによって、「何よりも都民のいのちとくらしを守る」東京都の姿勢を子どもたちに示していただくことを強く求めます。

記

1. 東京オリンピック・パラリンピックの競技を、学校・園の教職員が引率して子どもたちに観戦させる「学校連携観戦」事業を中止してください。
2. 都民、国民のいのちを守るため、今夏のオリンピック・パラリンピックを中止し、感染症対策に全力をあげてください。

団体名()
代表者名・連絡先()